

# 令和4年度小平市立小平第二中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

### (1) 教科に関する調査

身に付けておこななければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

#### 課題

話すこと・聞くことに関する活用力は、都の平均に比べ、おおむね高い正答率だった。人物の心情を捉える問題の正答率は都に比べ+6%と高い。一方、表現技法に関する知識を問われたものは、正答率が都に比べ10%下回っている。自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題も都の平均を下回っている。

表現技法や、漢字などの知識の定着を図る必要がある。  
また、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く能力の向上を図る必要がある。

#### 学校で取り組む具体的な改善策

表現技法に関する知識の定着を図るため、物語的文章、詩や俳句、短歌などの学習において、資料集を活用する。その知識の定着、及び、その表現技法が生み出す効果などを考えさせていく授業を展開する。また、自分の考えを明確に伝わる文章を書く力の向上のために、单元ごとに自分の考えをまとめたり、他者と話し合わせたり、書いた文章を読み合ったりする活動を取り入れていく。

### 【数学】

#### 状況の分析

#### 課題

全体の傾向としては、都平均より5%、全国平均より2.4%下回る結果であった。特にC関数の分野での正答率の低さが目立つ。一方、Dデータの活用に関しては、都や国の平均とほぼ等しく、背データを分析する力は比較的備わっていると考えられる。

観点別の知識・理解についてはよくできている。計算などは解き方が分かれば、同じように解くことができる生徒が多いが、思考を必要とする問題、説明する問題などに対応できる力を育てる必要がある。

#### 学校で取り組む具体的な改善策

- 毎時間の目標設定や教材の工夫、家庭学習の課題の精選をし、生徒の数学に対する意欲・関心を高めさせる。
- 数学的表現を正しく使い、証明問題や応用問題に対応できるよう、プリント学習を行う。
- 苦手意識のある項目に関しては、ティームティーチングや小グループでの学び合いを行い、個に応じた指導を行う。

**【理科】**

## 状況の分析

## 課題

日常生活にまつわる事項や、身近な現象に関する事項の正答率が全国平均に比べて低かった。また、無回答率が10%を超えた事項3問の正答率は全国平均より+6.3ポイント上回った。全国平均と同じ概ね高い傾向が見られた。

身近なものや身近な現象を科学と結び付けて考える力を身に付ける必要がある。

## 学校で取り組む具体的な改善策

教科書の「学びをいかして考えよう」や「つながる科学」等の読み物部分を読むだけでなく、他にも似たような日常の事例がないかをワークシートに個人で書かせ、班やクラスで共有する時間を設ける。

3学期には、課題を提示した際にゴールとなる答え方を全員で確認し、見通しをもった学習活動を行う。そして、課題に対する結論やまとめを書く際には、主語、条件部分、結論部分を色分けさせ、論理的で必要十分な文章の構造を理解させる指導を行う。

**【質問紙】**

## 状況の分析

## 課題

「自分にはよいところがあると思いますか」の項目は、全国平均を上回っている。このことは、多くの生徒が前向きな態度で生活し、落ち着いた校内の雰囲気にも表れている。また、PCやタブレット等のICT機器の使用に対しては、都・全国に比べ高い数値を示しているが、意見交換やまとめ学習等の発展的な学習に活用できていない現状がある。

課題としては、興味はあるものの、学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることが苦手である。今後は、自分なりに考えて取り組む生徒の育成を図り、説明しあう場面や、結果を基に根拠を考える場面を積極的に取り入れることで、更に力を伸ばすことができると考えている。

## 学校で取り組む具体的な改善策

授業中のICT機器の活用状況においては、「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えた生徒の割合が都・全国と比べて高い数値となった。今後は、自分の意見をまとめ、発表する場面での活用を図り、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思えるような指導を継続していく。課題として、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っています」と答えた生徒の割合が都・全国と比べ、低い値となっている。今後は、生徒が適切な使用や使用時間を守るなど、自主管理能力を育成するとともに保護者への啓発活動を充実していくことが必要である。また教員のICT活用指導力及び生徒のICT活用能力を向上させ、自分の意見や考えを他者に伝える活動を充実させる必要がある。